



プロジェクト スター



Founded by:

フェイル マー

吃音がある子供たちにコミュニケーション
する力を与える。

20
22



目次

01

プロジェクト要約

モチベーション、目的、目標

02

吃音とコンタクト・
インプロヴィゼーシ
ョンの紹介

03

プロジェクト
行程表

04

ワークショップの
スケジュールの
活動内容

05

パートナーシップ
&
連絡先情報

サポート方法、STARにおけるあなたの役割、お問い合わせ先

01 プロジェクト要約

モチベーション

幼い頃から時々吃音がありました。あまり気にしたことはありませんでした。しかし、同級生のように流暢に話せないことを自覚するようになり、自分の話し方に不安と恥ずかしさを感じるようになりました。吃音は目に見えない障害なので、私はそれを隠そうとするばかりでした。授業中も手を挙げず、家族や友人を避け、リーダーシップをとることも怖くなりました。今でこそ、自分のコンフォートゾーンを飛び出すことに頻繁に挑戦していますが、正しいメンタリティと、私を一步一步支えてくれる適切な人たちがいなければ、それは実現できなかったでしょう。これが、私のProject STARのビジョンであり、モチベーションでもあります。誰もが心地よく、自分らしくいられる場所。

目的

学齢期前半以降、吃音症は発話が乱れる頻度が高くなり、それを指摘されて自覚すると、自分への不満、話すことへの不安や恥ずかしさ、話す場面への恐怖を感じるようになります。

このプロジェクトは、東京に住む8歳から10歳までの様々な年齢の難治性吃音症をもつ子供たちを対象に、ワークショップで動きを通じて自己表現する機会を提供するものです。

このプロジェクトは、吃音によって引き起こされる感情や苦悩を表現するために、子供たちが判断することなく、楽しく表現する方法が緊急に必要であることに焦点を当て、肉体的、精神的に自分自身を再び結びつけ、自信を得ることをサポートする安全な空間を作り出すことを目的としています。

目標

1. 合計15回程度のワークショップを行い、そのうち2~3回は海外のパートナーに依頼する。
2. 吃音に関する教育資料やワークショップ開催のステップガイドを作成し、公式サイトで公開する。
3. ワークショップのファシリテーターを務めるチームメンバーとして15名のコミュニティを集め、トレーニングする。
4. リソース、寄付、イベントスケジュール、パートナーシップ登録、プロジェクトについてのドキュメンタリービデオを掲載するウェブサイトを開発する。



02 吃音について

吃音は、音、音節、単語の繰り返しや前置詞によって、発話が中断される言語障害です。本人は言うべきことを正確に理解しているにもかかわらず、吃音によって会話の流れが乱れるため、他人とのコミュニケーションが困難になります。¹

世界には7000万人の吃音症をもつ人がおり、5%の子供が吃音機を経験するといわれています。ほとんどの子どもは2歳から5歳の間に吃音を始めますが、吃音を持つ子供の80%は、何の治療もせずに最終的に吃音が止まります。学齢期まで吃音を続ける人は、生涯にわたって吃音を続ける可能性が高いといわれています。²

放っておくと、自分の言語能力が同世代の子供たちと比べて劣っていることに気づき、自尊心や自信が低下し、いじめの原因となり、やがて生活の質や対人関係も悪化していく可能性があります。

1. National Institute on Deafness and Other Communication Disorders. (2017, March 6). What Is Stuttering? Diagnosis & Treatment | NIDCD. Retrieved from National Institute on Deafness and Other Communication Disorders: <https://www.nidcd.nih.gov/health/stuttering>

2. DoSomething.org. (n.d.). 11 Facts About Stuttering . Retrieved from DoSomething.org: <https://www.dosomething.org/facts/11-facts-about-stuttering>

3. Kid Sense. (n.d.). Stuttering - Kid Sense Child Development. Retrieved from Kid Sense: <https://childdevelopment.com.au/areas-of-concern/diagnoses/stuttering/>

02

コンタクト インプロヴィゼーション

1972年にスティーブ・パクストンによって創設されたコンタクト・インプロヴィゼーションは、タッチ、運動量、共有体重、共有接点に従うという身体的原則に焦点を当てたダンスの一形態であります。ひとつひとつを大切にするコンタクト・インプロヴィゼーションは、転ぶ、転がる、持ち上げる、パートナーや周囲の環境に反応するなどの技術を探求し、実践する人に治療効果をもたらします。³

ダンスの治療効果には、筋肉に特異的な動きをする際に神経細胞を刺激することが含まれ、コンタクト・インプロヴィゼーションは、つながり、幸福、親密さ、コミュニティへの参加という人間の普遍的な欲求を尊重し、生活の質を高めるいくつかの心理・社会・生理的側面に対処することができます。⁴



"When Body, Mind, and Spirit are united in their instinctive wisdom one finds ones-self at home in every moment expressing ones true nature."

「身体、心、精神が本能的な知恵で一体となったとき、人は自分の本質を表現しているすべての瞬間に自分自身を見いだすことができる。」

- Moti Zemelman

2022

3. What is contact improvisation? (contactimprov.com)

4. Contact Improvisational Dance As A Therapeutic Intervention In Occupational Therapy Treatment Of Geriatric Populations(contactquarterly.com)



03 プロジェクト タイムライン

1 1 月

プロジェクト&ワークショップの開始

1 2 月

海外のパートナーを追加

1 月

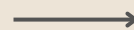
ファンドレイジングイベントと
教材開発

4 月

ウェブサイトと
ドキュメンタリーの開発

6 月

ドキュメンタリーやすべての教育リソース
をウェブサイトで公開する
おしまい



04 ワークショップ スケジュール

10:00

歓迎 & 自己紹介

「ザ・トーキングサークル」を通じてお互いを知り合う

10:20

ダンス入門

ウォームアップ & ストレッチ

アイスブレイク「フリースタイルサークル」 &

「Hello It's Me」アクティビティ

11:00

ベーシックをマスターする

簡単なルーティンでコンタクト・インプロヴィジョン
の基本を実践

12:00

ランチ休憩

昼食・休憩・ストレッチ

13:00

振り付け

グループに分かれる

ダンスの振り付けのステップバイステップガイド

個人練習とグループ練習

15:00

最終発表とお別れの言葉

各グループで振り付けを行う

振り返りタイム

お別れの挨拶

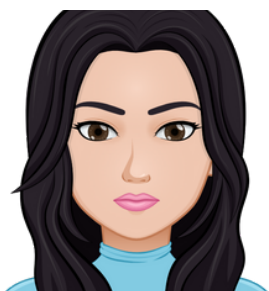
2022

05 パートナーシップ & 連絡先情報

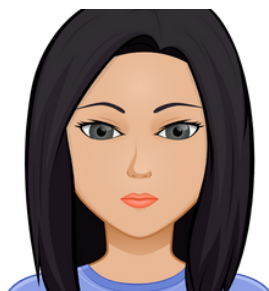
サポート方法

- 寄付
 - 活動資金に協力!
- ボランティア・参加!
 - チーム参加
 - ワークショップの開催を支援
- パートナーになる
 - あなたの地域・団体にProject STARの出張所を作ろう!
 - 日々の業務に協力

チーム紹介!



フェイル マー
→
創業者
振付師
ワークショップのファシリテーター



イエビン イ
→
ソーシャルメディア
相談
ワークショップのファシリテーター



みほ あさおか
→
振付師
ワークショップのファシリテーター



王壹銘
→
IT スペシャリスト



もりや いさら
→
長野県責任者
振付師アシスタント



ありがとうございます

Stay connected with us!



HP: projectstarofficial.com

Eメール: connectprojectstar@gmail.com

インスタグラム: [projectstar_official](https://www.instagram.com/projectstar_official)

2022